

國學院大學學術情報リポジトリ

The Classified Catalogue of Kokugakuin Zasshi in Volume 121, 2020

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/628

第121巻総目録

〔分類索引〕

総記

図書・書誌学

明治十二年版『山中人饒舌』考 大 和 博 幸 121-7

哲学

玄奘門下へのディグナーガ論理学の伝播について

—「エピメニデスのパラドックス」の事例から— 渡 辺 俊 和 121-3

人種の現象学 —人種化する経験と人種化される経験から人種差別を考える

小手川 正二郎 121-8

東洋思想

玄奘門下へのディグナーガ論理学の伝播について

—「エピメニデスのパラドックス」の事例から— 渡 辺 俊 和 121-3

竹内式部『中臣祓講義』について

—「人欲私欲」観を中心に— 大 貫 大 樹 121-10

『日本書紀』に見る古代祭祀 —神武天皇紀・崇神天皇紀を中心に—

(特集 『日本書紀』研究の現在と未来) 塩 川 哲 朗 121-11

倫理学・道徳

道徳教育の言葉と倫理教育の概念

(小特集 ことばと教育・教育のことば) 澤 田 浩 一 121-1

人種の現象学 —人種化する経験と人種化される経験から人種差別を考える

小手川 正二郎 121-8

宗教

神道

江戸時代の吉田家のいわゆる「神道啓状」と「神道之状」について

松 本 勇 介 121-4

内侍所臨時御神楽の意義について

伊 東 裕 介 121-4

米良山神楽の構成と御神屋神

小 川 直 之 121-5

『先代旧事本紀』の受容と神話の変奏

—神社関連記事の利用をめぐる— 間 枝 遼太郎 121-10

竹内式部『中臣祓講義』について —「人欲私欲」観を中心に—

大 貫 大 樹 121-10

- 古代の神祇祭祀体系 — 『日本書紀』「神代紀」から「天武紀」へ—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 岡田 莊 司 121-11
- 天石窟伝承と古代の祭祀構造に関する考察
— 天鈿女命の「俳優」と「顕神明之憑談」を中心に—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 小林 宣 彦 121-11
- 『日本書紀』に見る古代祭祀 — 神武天皇紀・崇神天皇紀を中心に—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 塩 川 哲 朗 121-11
- 文徳・清和朝の神階奉授と由緒に関する試論
— 『日本書紀』との対応関係を念頭に—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 加 瀬 直 弥 121-11

仏教

- 玄奘門下へのディグナーガ論理学の伝播について
— 「エピメニデスのパラドックス」の事例から— 渡 辺 俊 和 121-3

歴史

日本史

[古代]

- 古代の神祇祭祀体系 — 『日本書紀』「神代紀」から「天武紀」へ—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 岡田 莊 司 121-11
- 『記紀』と大嘗祭 — 大嘗宮遺構から考える『記紀』と大嘗祭の関係—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 笹 生 衛 121-11
- 天石窟伝承と古代の祭祀構造に関する考察
— 天鈿女命の「俳優」と「顕神明之憑談」を中心に—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 小林 宣 彦 121-11
- 『日本書紀』に見る古代祭祀 — 神武天皇紀・崇神天皇紀を中心に—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 塩 川 哲 朗 121-11
- 奉誅儀礼と王権継承
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 佐 藤 長 門 121-11
- 景行紀の二人の皇后 — 婚姻伝承からみた国内統合—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 遠 藤 慶 太 121-11
- 景行天皇の東国巡行伝承をめぐって
— 『日本書紀』と『常陸国風土記』・『高橋氏文』—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 長谷部 将 司 121-11
- 敏達紀の「弥勒石像」と朝鮮三国の弥勒信仰
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 山 崎 雅 稔 121-11
- 地域史研究と『日本書紀』 — 長国造とそのクニを考える糸口として—
(特集 『日本書紀』 研究の現在と未来) 森 公 章 121-11

『日本書紀』の素戔鳴尊 (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	谷 口 雅 博	121-11
味耜高彥根神 —『日本書紀』天孫降臨章を読む— (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	松 本 直 樹	121-11
『日本書紀』β群の編述順序 —神武紀・景行紀の比較から— (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	瀬 間 正 之	121-11
日本武尊関係記事の構句と表現 —景行紀内部にみる述作の多層性— (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	葛 西 太 一	121-11
『日本書紀』における蝦夷の考察 —景行紀の神話的背景— (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	井 上 隼 人	121-11
舒明朝の考古学的特質 (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	青 木 敬	121-11
飛鳥の土器と『日本書紀』 (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	小 田 裕 樹	121-11
いわゆる音義木簡とその依拠原典 —律令国家成立期の經典将来をめぐって— (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	山 本 崇	121-11
文徳・清和朝の神階奉授と由緒に関する試論 —『日本書紀』との対応関係を念頭に— (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	加 瀬 直 弥	121-11
[中古]		
内侍所臨時御神楽の意義について	伊 東 裕 介	121-4
『日本書紀』成立後の野見宿禰伝承 —再解釈される『日本書紀』の氏族伝承— (特集 『日本書紀』研究の現在と未来)	溝 口 優 樹	121-11
[中世]		
九州で戦った常陸武士 —小河益戸行政—	中 根 正 人	121-3
天正二十年聚楽行幸考 —新出『天正二十年 聚楽第行幸記』を中心に—	竹 内 洪 介	121-9
[近世]		
幕末期新選組における洋式調練の意義	吉 岡 孝	121-4
江戸時代の吉田家のいわゆる「神道啓状」と「神道之状」について	松 本 勇 介	121-4
寛文・延宝期における江戸の大工頭	川 村 由紀子	121-8
[近代以後]		
皇統の代数確定と国学	齊 藤 智 朗	121-6

アジア史・東洋史

敏達紀の「弥勒石像」と朝鮮三国の弥勒信仰

(特集 『日本書紀』研究の現在と未来)

山崎 雅稔 121-11

社会科学

政治

寛文・延宝期における江戸の大工頭

川村 由紀子 121-8

社会

寛文・延宝期における江戸の大工頭

川村 由紀子 121-8

教育

文学と国語科 —ことばの学びについて

(小特集 ことばと教育・教育のことば)

高橋 大助 121-1

言葉の学びと「自分の言葉をつくる」こと

(小特集 ことばと教育・教育のことば)

齋藤 智哉 121-1

高等学校国語科授業における文学のことば —「山椒魚」(井伏鱒二)—

(小特集 ことばと教育・教育のことば)

高山 実佐 121-1

道徳教育の言葉と倫理教育の概念

(小特集 ことばと教育・教育のことば)

澤田 浩一 121-1

教育のことばとして「コミュニケーション」を考える

(小特集 ことばと教育・教育のことば)

多和田 真理子 121-1

風俗習慣・民俗学・民族学

米良山神楽の構成と御神屋神

小川 直之 121-5

若狭のニソの杜の祭地と水源

関沢 まゆみ 121-8

「肉付き面」モチーフの多義性 —「心の鬼」から鬼となる者—

(学生懸賞論文)

西座 理恵 121-8

『駿河清重 伊達紙子笈捨松』における伝説の再生

—奥州白石断と常陸坊海尊—

三田 加奈 121-9

技術・工学

建築学

寛文・延宝期における江戸の大工頭

川村 由紀子 121-8

芸術・美術

絵画・書道

明治十二年版『山中入饒舌』考

大和 博幸 121-7

楊峴隸書考 —第四期の作品を中心に—

野村 ひかり 121-12

音楽・舞踊

内侍所臨時御神楽の意義について 伊 東 裕 介 121-4

演劇・映画

中国の漫才“相声”におけるボケとツッコミ 針 谷 壮 一 121-7

言語

日本語

条件表現の全国分布に見られる経年変化 —認識的条件文の場合—
三 井 はるみ 121-2

中古推量系助動詞の諸相 —未定・既定の観点から—
三 宅 清 121-2

『古事記』訓読文の「むとす」と補読の「たまふ」とから
—その「む」は、どう読みとったらよいか— 中 村 幸 弘 121-3

『玉塵抄』における「らう・つらう・うずらう」の用法
山 田 潔 121-5

該当する単語が特定できないのに、可能の意が読みとれる表現について
—否定表現を共起させない、『古今和歌集』歌の可能表現に限って—
中 村 幸 弘 121-9

『日本書紀』β群の編述順序 —神武紀・景行紀の比較から—
(特集 『日本書紀』研究の現在と未来) 瀬 間 正 之 121-11

いわゆる音義木簡とその依拠原典 —律令国家成立期の經典将来をめぐって—
(特集 『日本書紀』研究の現在と未来) 山 本 崇 121-11

『落葉集』の二つの訓 今 野 真 二 121-12

中国語・その他の東洋の諸言語

中国の漫才“相声”におけるボケとツッコミ 針 谷 壮 一 121-7

文学

日本文学

文学と国語科 —ことばの学びについて
(小特集 ことばと教育・教育のことば) 高 橋 大 助 121-1

武田泰淳と翻訳 —武田泰淳訳謝冰心「私の見た蔣夫人」を中心に—
郭 偉 121-8

『先代旧事本紀』の受容と神話の変奏 —神社関連記事の利用をめぐって—
間 枝 遼太郎 121-10

天石窟伝承と古代の祭祀構造に関する考察
—天鈿女命の「俳優」と「顕神明之憑談」を中心に—
(特集 『日本書紀』研究の現在と未来) 小 林 宣 彦 121-11

- 『日本書紀』β群の編述順序 —神武紀・景行紀の比較から—
(特集『日本書紀』研究の現在と未来) 瀬 間 正 之 121-11
- 『日本書紀』における蝦夷の考察 —景行紀の神話的背景—
(特集『日本書紀』研究の現在と未来) 井 上 隼 人 121-11
- 詩歌
- [古代]
- 『日本書紀』景行天皇条における「御木のさを橋」(紀24) 歌の記載意義
(特集『日本書紀』研究の現在と未来) 小 野 諒 巳 121-11
- 日本書紀の歌と歴史叙述 —顕宗即位前紀の「室寿」「歌」「誥」—
(特集『日本書紀』研究の現在と未来) 居 駒 永 幸 121-11
- 小説・物語
- [古代]
- 『日本書紀』の素戔鳴尊
(特集『日本書紀』研究の現在と未来) 谷 口 雅 博 121-11
- 味耜高彥根神 —『日本書紀』天孫降臨章を読む—
(特集『日本書紀』研究の現在と未来) 松 本 直 樹 121-11
- [中古]
- 『落窪物語』忠頼七十賀屏風攷 荒 井 洋 樹 121-2
- 『源氏物語』の「時奏」^{ときのおう}を読む 吉 海 直 人 121-5
- 『源氏物語』「若菜下」巻における女三の宮と琴の琴 岩 原 真 代 121-6
- 柱に歌を書きつける薫
—『源氏物語』「手習」巻「見し人は」の歌が意味するもの—
高 倉 明樹子 121-12
- [近世]
- 『駿河清重 伊達紙子笈捨松』における伝説の再生
—奥州白石噺と常陸坊海尊— 三 田 加 奈 121-9
- [近代以後]
- 境界に立つ知性 —大石千代子のサンパウロ体験、『輝ク』と「蝸牛」—
高 橋 大 助 121-10
- 評論・エッセイ・随筆
- [近代以後]
- 境界に立つ知性 —大石千代子のサンパウロ体験、『輝ク』と「蝸牛」—
高 橋 大 助 121-10
- 記録・手記・ルポルタージュ
- 天正二十年聚楽行幸考 —新出『天正二十年 聚楽第行幸記』を中心に—
竹 内 洪 介 121-9

漢詩文・日本漢文学

[古代]

日本武尊関係記事の構句と表現 —景行紀内部にみる述作の多層性—

(特集 『日本書紀』研究の現在と未来) 葛西太一 121-11

[中古]

『藤原保則伝』試論 —〈批判精神〉の獲得とその文学史的意義—

河野友哉 121-3

中国文学・その他の東洋文学

唐代伝奇小説における変虎譚の諸相 —中島敦「山月記」に及ぶ—

赤井益久 121-7

武田泰淳と翻訳 —武田泰淳訳謝冰心「私の見た蔣夫人」を中心に

郭偉 121-8

楚辭「離騷」に於ける変易

木村剛大 121-10

ドイツ文学

スロヴェニア・モデルネの誕生 —イヴァン・ツァンカルのウィーン

宍戸節太郎 121-6

フランス文学

占領下のシュルレアリスム「ペンを持つ手」におけるイメージ論の展開と実践

進藤久乃 121-9

その他の諸文学

スロヴェニア・モデルネの誕生 —イヴァン・ツァンカルのウィーン

宍戸節太郎 121-6

書評

Sarah Anne Carter, *Object Lessons: How Nineteenth-Century*

Americans Learned to Make Sense of the Material World,

Oxford University Press, 2018.

高屋景一 121-1

中里見敬編著『『春水』手稿と日中の文学交流 —周作人、謝冰心、濱一衛—』

大久保洋子 121-2

紹介

松尾葦江編(軍記物語講座第3巻)『平和の世は来るか 太平記』

野中哲照 121-3

高埜利彦著『日本史リブレット86 江戸時代の神社』吉永博彰 121-4

藤野寛・西村誠編『アドルノ美学解説 崇高概念から現代音楽・アートまで』

橋爪恵子 121-5

高橋良久・畠山大二郎共著『新しく古文を読む一語と表象からのアプローチ』

山田利博 121-10

談話室

インターネットと無神論 —デジタル時代における「カミング・アウト」

ヘイヴンズ・ノルマン 121-1

皇帝と天子

金子修一 121-2

ジョージアワインと葡萄酒色の海

古山正人 121-3

象徴・祭祀・祈り

—「象徴としてのお務めについてのおことば」をめぐって—

武田秀章 121-4

「イギリス史」とEU離脱

大久保桂子 121-5

中洲新地を探して

中村正明 121-6

回転木馬の住人

笠間直穂子 121-7

古代ギリシアにおける疫病の語り

木原志乃 121-8

中国の普渡と祭鍊

松本浩一 121-9

目安箱は民衆の意見を政治に反映させたのか

根岸茂夫 121-10

四十五片を焼き継ぎした有田焼

青木豊 121-12